

41036

教科書文庫

4
760
41-1909
01304 49454

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

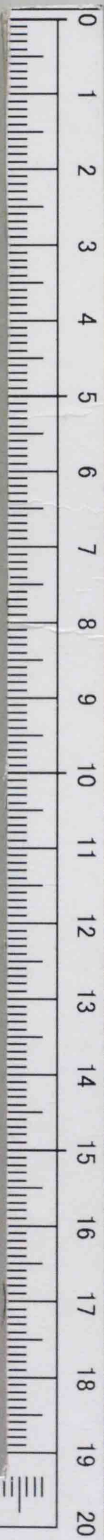
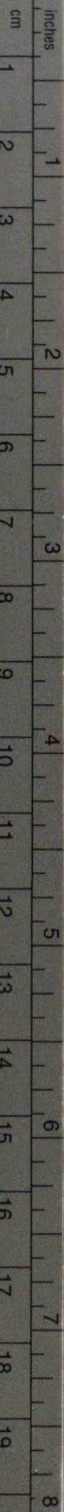


© Kodak 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak 2007 TM: Kodak



教科書文庫

4

760

41-1909

0130449454

天谷秀編

最新中等唱歌集



教科書文庫

4

760

41-1909

0130449454

中央図書館

広島大学図書

0130449454



文部省檢定濟

明治四十二年三月五日

最新
中等
唱歌
集

天
谷
秀
編

十字屋樂器店發行

広島大学図書

0130449454



最新中等唱歌集

緒言

一近世科學的教法、大に發達し、公私設立の諸學校、師範學校、中學校及高等女學校等、日に月に隆盛し、其程度ますます高まるに從ひ、屢々新教材を需むる者多きの觀あり、依て是に中學科の資に供せむか爲め、此の新選教材を編纂せるものなり。

一本書收むる所の歌詞は、文學諸大家に請ひ、特に作詠せられたる者、作曲は數番の原曲を除く外、現今斯道に嘖々たる名家諸氏の作に係る者を集めたり。

一本書所載、歌曲の順序は、素と其難易に依れりと雖も、或は教授者に於て施用の手段として、任意に之を變更せらるゝも妨げなし。

明治四十一年五月

編者識

目次

第一	運動會歌	四
第二	海	六
第三	海國女子	八
第四	帝國海軍	一〇
第五	秋の散歩	一二
第六	日光	一四
第七	音樂會	一六
第八	秋野	一八
第九	校友會閉會の歌	二〇
第一〇	曉の旅	二二
第一一	詠史	二四
第一二	月	二六
第一三	窓の小鳥	二八
第一四	建都	三〇
第一五	海水浴	三二

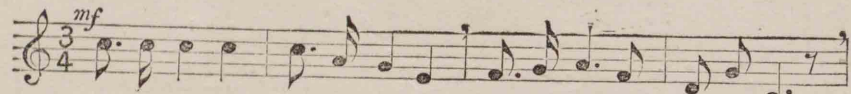
第一六	長良河の鵜飼	三四
第一七	古戦場	三六
第一八	芳野山	三八
第一九	薩摩守忠度	四〇
第二〇	神州男兒	四二
第二一	落機山吹雪	四四
第二二	山家の初冬	四六
第二三	惠の波	四八
第二四	樂聖	五〇
第二五	黃鳥	五一
第二六	春の歌	五四
第二七	端艇競漕	五六
第二八	初夏	五八
第二九	山居の美	六〇
第三〇	姫百合	六二

以上

運動會歌

Allegrezza. ♩ = 120.

天谷 秀



一 ノドケキヤ マニハ サクラノ ハナモ

二 はれたる の べには かげるふ もえて



三 ソリカセ マチガ ホチラ ホラ サラガ

ひ かげに ちくさも ひら ひら をどる



四 ソレヲ ハイキモノ タノシキ ハルチ

われらはいきものうれしきけふを

五



△ ダニヤ スギナ △ イザトモキタレ

ただにやくらきむいざともきたれ

運動會歌

旗野 十一郎

四

一、長閑き山には、さくらの花も。吹く風まらがほ、

チラホラさわく。吾等は活物、たのしき春を。

空にやすきなむ、イザ友きたれ。』

二、晴たる野へには、陽炎燃えて。日影にちくさも、

ヒラヒラをどる。吾等は活物、うれしき今日を。

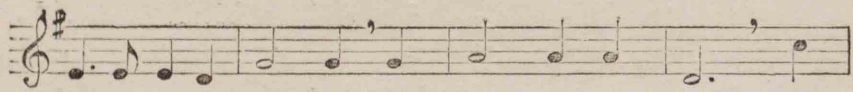
徒にやくらさむ、イザ友きたれ。』

海

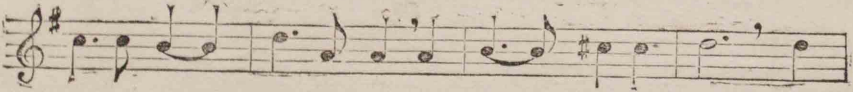
Moderato. ♩ = 100.



一、二、三、四
ナ ミ ナ ク タ テ テ ク ロ ケ ム リ リ
み わ た し ひ ろ く か ぎ ー リ な き あ
ウ ミ ハ ユ タ ク キ ト キ ー モ ア リ イ
か す の た か ら を お ほ ー き み に さ

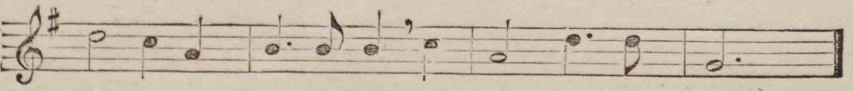


ソ マ キ ロ タ ル フ ネ モ ア リ カ
な う な ば ら は す さ の を の カ
カ リ テ ス サ プ フ リ モ ア リ ユ
さ げ ん も の と わ た つ み は み



タ ホ ニ ー マ ホ ニ タ カ ー ク ア ゲ カ
み ー の し ら せ る く に ー な れ ば カ
タ ケ シ ト テ ー モ ユ ダ ー ス ナ イ
ち ー を ひ ら き て ま ち ー て あ リ ヤ

七



ゼ チ ハ ラ ミ テ ユ ク モ ア リ
す の た か ら な な さ め た リ
カ リ タ リ ト モ オ ソ ル ナ ヨ
よ ま す ら を よ う み を の

海

六

加部 嚴夫

一、波を蹴たてよ、

片帆に眞帆に、

二、見わたしひろく、

神のしらせる、

三、海はゆたけき、

ゆたけしとても、

四、数の寶を、

道を開きて、

黒けむり。

高くあげ。

かぎりなき。

國なれば。

時もあり。

ゆたんすな。

大君に。

待ちてあり。

渦巻わたる、

風をはらみて、

青海原は、

数の寶を、

怒りてすさぶ、

いかりたりとも、

さよげんものと、

やよますらをよ、

船もあり。

ゆくもあり。』

すさのをの。

藏めたり。』

をりもあり。

おそるなよ。』

わたつみは。

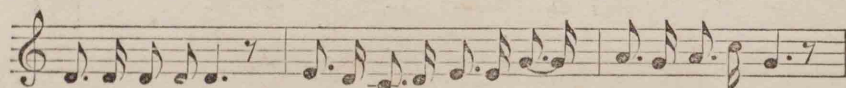
海を見よ。』

海 國 女 子

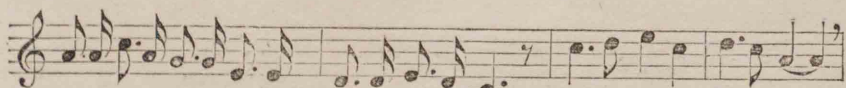
Allegrezza. ♩ = 120.



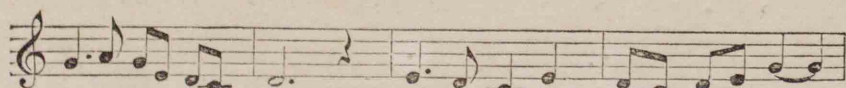
一、サカマクナミヲ モノトセズ カ子サヘトーグル
二、みなきるかぜな ものとせず つきさへこーほる



ナツノヒニ コキウチアトニー ヲミトホク
ふゆのよに こきやうをあとにー うみとほく

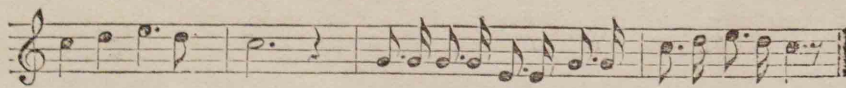


バンリノドタツチ ケタテツツ マダミメクニニー
ばんりのどたうを けたてつつ まだみぬうみをー



ウチローター リ セカイノ サーチーラー
こぎわーけー て そこなる しーんーじゆを

九



テニドラ ン ユケユケチミナゴ イザトモニ
あさらなん ゆけゆけなみあご いざともに

海 國 女 子

小 森 松 風

八

一、逆卷く浪を、

物とせず。

金さへ鑠る。

夏の日に。

故郷をあとに、

海洋遠く。

萬里の怒濤を、

蹴立てつゝ。

まだ見ぬ國に、

うち渡り。

世界の幸を、

手に取らん。

ゆけくをみなご、

いざ共に。』

月さへ凍る、

冬の夜に。

二、身をきる風を、

物とせず。

萬里の怒濤を、

蹴立てつゝ。

故郷をあとに、

海洋遠く。

底なる眞珠を、

あさらなん。

まだ見ぬ洋を、

漕分けて。

底なる眞珠を、

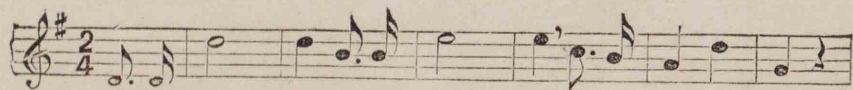
あさらなん。

ゆけくをみなご、

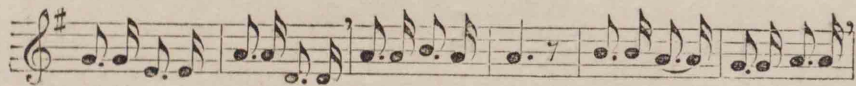
いざ共に。』

帝國海軍

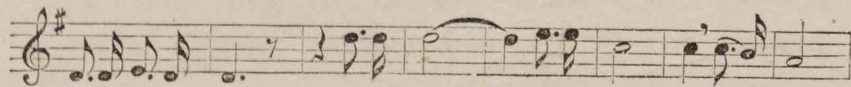
Allegretto. ♩=120.



一、二、三、四、
 パン ラ イ イ ナ シ ニ ガ ナ タ リ ナ
 と げ い の は ー リ の た え ま な く
 イ ッ テ ヲ コ ー ト ノ ア ラ ン ヲ リ
 う み せ ま き ー ま で ふ れ を う け



グ イ カ イ イ ナ ジ ニ ク ツ ガ ヘ リ テ キ ノ ー カ ン タ イ
 よ ほ す す み つ つ ー や む ま な し さ ら ば ー き の ふ に
 フ ジ ヤ ー ア サ マ ヤ ヒ エ ツ ク バ イ ハ ミ ー サ ッ マ ヤ
 あ し よ り し げ く ー つ つ を す 魚 く に を ー ま も り の



ク グ キ シ モ イ マ ハ ー ム カ シ ノ モ ー ノ
 い や ま し て げ ん か ん き よ は く か ー す
 シ キ シ マ ノ ウ ミ ヲ ー オ ホ ヒ テ ス ー ス
 か た か ら ば よ に あ だ な ー み は た ー た



ガ タ リ テ イ コ ク カ イ ガ ン パ ン パ ン ザ イ
 ま せ リ て い こ く か い ぐ ん ば ん ば ん ざ い
 マ マ シ テ イ コ ク カ イ ガ ン パ ン パ ン ザ イ
 じ か し て い こ く か い ぐ ん ば ん ば ん ざ い

帝國海軍

加部 嚴夫

一、萬雷一時に、
 敵の艦隊、
 帝國海軍
 萬々歳。』
 墜ちたりな。
 碎きしも。

二、時計の鍼の、
 さらばきのふに、
 帝國海軍
 萬々歳。』
 たえ間なく。
 いやまして。

三、一朝事の、
 石見薩摩や、
 帝國海軍
 萬々歳。』
 あらんをり。
 敷島。の。

四、海をまきまで、
 國をまよりの、
 帝國海軍
 萬々歳。』
 船を浮け。
 かたからば。

大海一時に、
 今は昔の、
 今
 ものがたり。

堅艦巨舶、
 世はすくみつゝ、
 堅
 やむまなし。
 數増せり。

富士や淺間や、
 海を覆ひて、
 富士
 比叡筑波。
 すゝままし。

葦よりしげく、
 世にあだ波は、
 葦
 砲をすゑ。
 たゝじかし。

秋の散歩

Moderato. ♩=120.

天谷 秀

mf
 ハ コ ニー ハー ミー チ ヌ マ ツ ム シ ス プ ム シ
 カ コ ニー ハー ア マ レ リ オ チ グ リ プ ダー ヴ

mp
 マ ツ カ ゼ サ ー ム シ シ ロ ノ アー ト
 ス ー ス キ ミ ダ ル ル コ セ ン ギ ヤ ヴ

pp *mf*
 ク モ シ ロ ク ミ ヅ ア ナ シ モ ミ ー ガ バ ニ サ ス ヤ ヌ フ ヒ チ

f
 ソ ノ マ マ ニ フ ミ ニ ッ ク ラ ム エ ニー カ カ ム ソ ラ タ カ ク

コ コ ロ モ キ ヨ シ ア ハ レ コ ノ ア キー ビ ヨ リ

ff
 ヤー マ ニー ニ ヲ ガ ヌ ト コ ロ ナ ベ テ イ キ ヌ ル マ ナ ビ ノ ニ ハ

タ ノ シ ヤ ヌ カ ム キー ミ モ ヲ レ モ ヴ レ シ ヤ ヌ カ ム ケー フ モ ア ス モ

秋の散歩

棟方 悌二

箱には満ちぬ、

松蟲鈴蟲。

籠にはあまれり、

落栗葡萄。

松風寒し城の址、

薄みだるゝ、

古戦場。

雲白く、水青し、

紅葉ばに、

さすや夕日を、

そのまゝに。

文に作らむ、

畫にかゝむ、

空高く、

心も清し。

あはれこの、

秋日和、

山に野に、

我が行く所。

なべて活きたる、

學びの庭。

嬉しや行かむ

今日も明日も。

樂しや行かむ、

君も我も。

日光

旗野十一郎

一、山に水に、

あこがれて。

世の諺に、

いふごとく。

ふたらのやまの、

神の宮。』

名所見む人、

まづみよと、

貌姑射ならねど、

玉くしげ。

二、春に秋に、

つねなれど。

東を照らす、

みやしろは。

いろ升形の、

花紅葉。

名たゝる瀧津瀬、

世にひゞき

ひと日暮の、

門もあり。

三、朝に夕に、

あけくれも。

今あらためて、

日の光る。

他國までも、

およぶなり。』

うきよにことなる、

かみの山。

郷と名に負ふ、

かゞやきは。

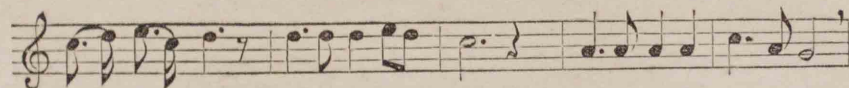
日光

天谷秀

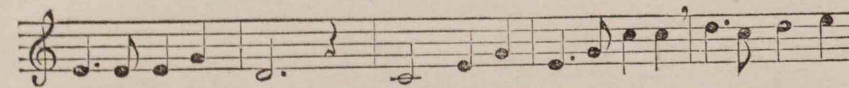
Moderato. ♩=112.



一、ヤマニミツニア コーガレテナ ドコロミ
 二、はるにあきにつ ねなれどなたたるた
 三、アサニユフニア ケクレモウキヨニコ

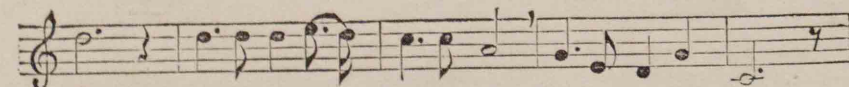


ムーヒート マツミヨート ヨノコトソザニ
 キーつーせ よにひびーき あづまなてらす
 トーナール カミノキー マ イマアラタメテ



イフゴトク ハコヤナラネドタマクシ
 みやしるは ひとひぐらしのわどもあ
 ヒノヒカル サトトナニオフカガヤキ

一五



ゲ フタラノー ヤマノ カミノミヤ
 リ いろますー がたの はなもみぢ
 ハ ヒトクニー マデモ オヨアナリ

音 樂 會

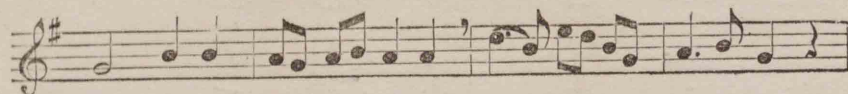
内田 乘太郎

Andante. ♩ = 96.



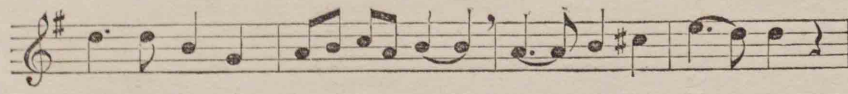
ニ ヌ ノ ヲーグーロス ハル マーダー ヲ カク

ニ お の が て だ れ の た し な み く ら べ



キ ギ ノ モーモートリ シーラーペー タ カシ

ピ ア ノ オールーガン ひーきもー きらす



イ ヅ レ モ キーヨーキー ヲータノ ハー マ

し ら べ は あ や に か ら に し き



カ ロ ア ル ケ フ ノ クワイニゾ アリケル

た た ま く な し き くわいにぞ あ り け る

音 樂 會

旗野 十一郎

一、たにのうぐひす、春まだわかく。

さゞの百鳥、しらべたかし。

いづれもきよき、歌の濱、かひある今日の。

會にぞありける。』

二、おのがてだれの、たしなみくらべ。

ピアノ、オルガン、ひきもきらず。

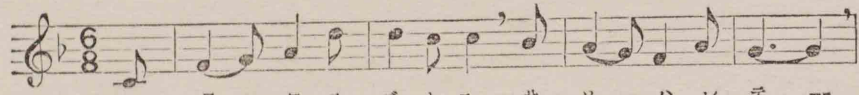
しらはあやに、唐錦、たゞまく惜しき。

會にぞありける。』

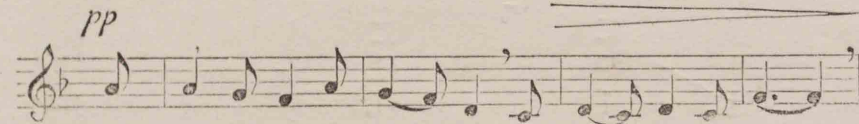
秋 野

Moderato. ♩ = 108.

天 谷 秀



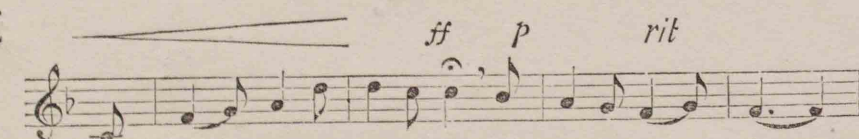
一、マ 子 - ク ナ パ ナ ニ サ ソ - ハ レ テ -
 二、む ら さ き に ほ - ふ は ぎ - き き や う -
 三、カ リ ガ 子 ソ タ - ル ヤ マ - ノ ハ ニ -



ト ヒ キ シ ソ テ - ナ フ ク - カ セ ニ -
 き ぐ も と み ゆ - る な み - な へ し -
 タ キ - ノ シ ラ イ ト ソ メ - ナ シ テ -



コ コ - ロ ス ミ ュ ク ア キ ノ ソ - ラ -
 も リ - な め ぐ り て ゆ く み づ - に -
 ガ リ ナ ス モ ミ ゲ ノ カ ラ ニ シ - キ -



ノ ム - ノ ナ ガ メ モ ガ モ シ ロ - ヤ -
 あ き - つ と び か ふ な の す - そ -
 シ タ テ ル ヒ メ - ノ タ ス サ ビ - カ -

一九

秋 野

一八

一、まねく尾花に、

誘はれて、

訪ひ來し袖を、

吹く風に。

こころ澄みゆく、

秋の空。

野邊の眺望も、

おもしろや。

二、むらさき匂ふ、

萩桔梗。

黄雲と見ゆる、

女郎花。

森をめぐりて、

行く水に。

蜻蛉飛び交ふ、

岡の裾。

三、かりがね渡る、

山の端に。

瀧のしらいこ、

染めなして。

織りなす紅葉の、

唐錦。

下照姫の、

手すさびか。

小 森 松 風

校友會閉會の歌

Allegretto. ♩ = 116.

ハ ナ ノ ハ ナ ノ ア シ タ ヤ モ ミ ダ ノ ユー フ ベ
 ヲ カ レ ヲ カ レ ヲ カ レ ニ ミ チ コ ソ カー ハ レ

ト モ ニ ト モ ニ ハ ダ ミ シ ム カ シ チ シー ノー ビ
 ト モ ニ ト モ ニ ツ ク サ ン ミ ク ニ ノ ター メー ニ

Moderato. ♩ = 108.

ケ フ ノ マ ト 平 ニ カ ギ リ ハ ア レ ド

ナ ガ ク タ ノ シー キ ヲ レ ラ ガ コ コ ロ

校友會閉會の歌

加部 嚴 夫

花^{はな}の、花^{はな}のあしたや、もみぢのゆふへ。

ともに、ともにはげみし、むかしをしのび。

わかれ、わかれわかれに、道^{みち}こそかはれ。

ともに、ともにつくさん。皇^{みくに}國^{くに}のために。

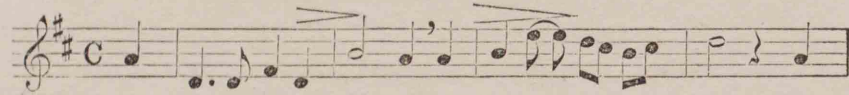
けふのまるとるに、かぎりはあるど。

ながくたのしき、われらがこころ。

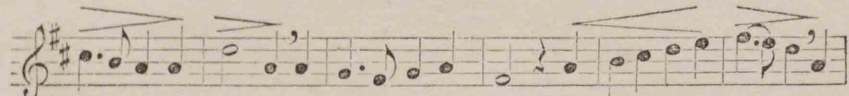
曉の旅

Bewegter. ♩=120.

Volkswiese.



ニヨナカノナゴリホシニミセテア
ニくるみしこだちあなくはれてた



ケユクツラノニホロスス△タビダツヒトノア
のにもつづくのらのひろさたびゆくひとのむ



シモトモニホガラホガラキマンハイキ
ねもそれよあなたこなたみわたすまな



ツキテノボルアサヒイサマシナ
さ一きにかはるけしきおもしろや

曉の旅

旗野十一郎

一、夜半のなごり、星に見せて。

あけゆく空の、映ひすゝむ。

旅立つ人の、足もともに。

ホガラホガラ、山の端息つきて。

のほる旭日、いさましや。

二、黒みし樹立、青く晴れて。

田の面につづく、野らのひろさ。

旅行く人の、胸もそれよ。

アナタユナタ、見わたすまなさきに。

かはる景色、おもしろや。

詠史

Larghetto. ♩ = 66.

金須嘉之進

二、ヨ ルーノオトドニトノキシテ
 三、き みーとおやとのふたみちに

ロ キナラシタール アツサユミ
 ハ けてつくせーる ことのはは

ツ ルノオトニーマ オホキミノ
 い くさのには一のいさをにも

ゴ ナリーチコソハ ヤスメケレ
 ま まりーたりけり うへしこそ

二五 ソーアツサユミミ マクラノ
 こ まーつはちよののらまでも

ヨ ルノマモリート ナリニケリ
 か しこきたーめしに ひかれけれ

詠史

第一、義家朝臣

三田 葆光

よるの大殿に、
 ひきならしたる、
 つるのおとにも、
 御腦をこそは、
 そのあづさ弓、
 よるのまもりと、

と
 梓の
 大あ
 やし
 御す君
 なめ弓
 り枕の
 けれ
 の
 けり。

第二、小松内府

君とおやとの、
 かけてつくせる、
 いくさの場の、
 まさりたりけり、
 小松は千代り、
 畏きは千代の、
 例の、
 に、

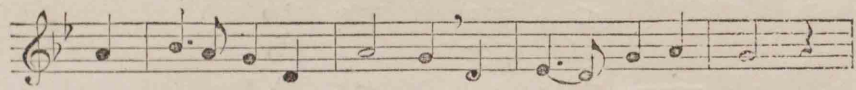
雨
 こ
 いと道
 諾の
 のをはに。
 曳こには。
 れまでも。
 けり。
 れ。

月

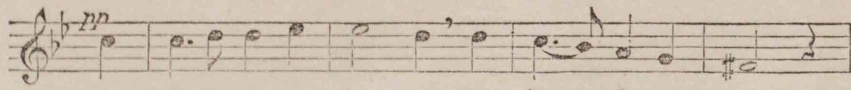
Modcrato. ♩ = 96.



一、二、三、四、
 チ グ サ ニ ス ダ ク ム シ ノ 子 ナ
 な か の し た み ち す き く れ ば
 コ ノ カ ハ カ ミ ニ テ ラ ヤ ア ル
 か な し き む し の れ に そ へ て

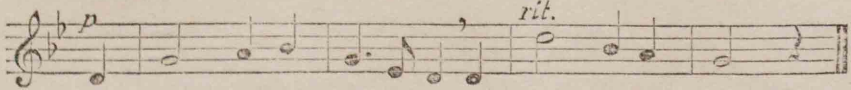


キ キ ツ ツ タ ド ル ノ ナ ノ ス エ
 ど ば し か か れ る い さ さ が は
 カ ネ ノ 子 サ ヘ モ ロ ビ ク ナ リ
 か れ の ひ び き に ふ え の こ 糸



ワ バ ナ ノ ソ テ ニ マ ネ カ レ テ
 な が る る を と は か す カ に て
 コ ノ カ ハ シ モ ニ タ レ カ ス ム
 お も ば す し ぼ る わ か そ で の

二七



ノ ホ リ シ ツ キ ノ サ ヤ ケ サ ヨ
 そ こ に や ど れ る つ き の か げ
 フ エ ノ 子 サ ヘ モ キ コ ユ ナ リ
 な み だ に つ き も や ど れ る か

月

一 ちぐさにすだく、

をばなの袖に、

二 をかの下道、

ながるゝ音は、

三 このかはかみに、

このかはしもに、

四 かなしきむしの、

おもはずしほる、

蟲の音を。

まねかれて。

すぎくれば。

かすかにて。

寺やある。

たれかすむ。

ねにそへて。

わがそでの。

きつゝたどる、

のほりし月の、

土橋かゝれる、

そこに宿れる、

かねのねさへも、

ふえの音さへも、

鐘のひびきに、

なみだにつきも、

小 森 松 風

野路のすゑ。

さやけさよ。

いさゝがは。

月のかけ。

ひびくなり。

きこゆなり。

笛のこゑ。

やどれるか。

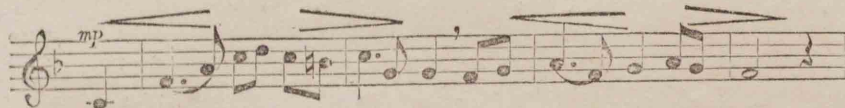
窓の小鳥

Andante. ♩ = 96.

天谷秀



一 シ ヅケキ マドノイ サードリ
 二 ニ トリも まどには かげさし
 三 タ キーモノ カナルフ ミーノヘ ヤ

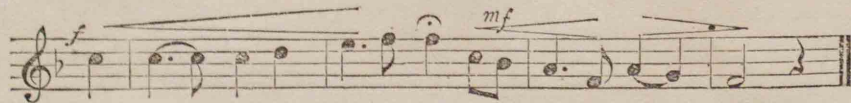


チ ヨーチヨー ナニチカールラム
 ひと まちかほやあぐさむる
 フルビーニイマチシラーガカヂ



ハールノアツビーノオモシロサ
 かまのきりすみつぎに
 ヒートノツレツレホードカシテ

二九



サメノハナニモシレトテカ
 あもひまうけのうたがたき
 マドニサヘツルグーロツグーミ

窓の小鳥

旗野十一郎

二八

一、静けき窓の、

春のあそびの、

面白さ。

梅の花にも、

知れとてか。』

いさゞどり。

チヨチヨなにを、

語るらむ。

二、小鳥も窓に、

羽影さし。

人待がほや、

慰むる。

釜の切炭、

つぎつぎに。

思ひ設の、

歌對手。』

三、薰物かをる、

書齋。

古風に今を、

白髮翁。

他の徒然、

おどかして。

窓に轉る、

黒鵲』

建 都

Moderato. ♩=108.
(♩調に移調スルコトヲ得)

ニミ イツノカゼニミ ヨハナビキア
ニむ さしのほらはつきのがけのく
ニワ ガホキミノガーマシドコロチ

ツマニミヤコサダメタマフ
さよりいでてくさーにーいるさう
ヨダノシロチナーカーニカキテヨ

スルナメイザガーンチンノカ
たひしあとはとこるしめてあ
サトニヲタルチマタチマタヲ

三

ミナシツギーノシフサーニチゾ
なひとぐさーのやなみつづく
ガホキミノーホマシドコロ

建 都 (紀念歌)

旗野十一郎

三〇

一、御威光の風に、
東國に帝都、

御世は靡き。
定めたまふ。

忘るな明治、
十月の、

元年の。
十三日ぞ。

二、武藏の原は、

月の影の。

草よりいでよ、

草にいと。

歌ひし跡は、
蒼生、

所しめて。
家並つらく。

三、わがおほきみの、
千代田の城を、

おましどころ。
中央におきて。

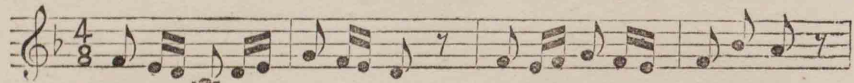
四里に渡る、
わがおほきみの、

街衢。
おましどころ。

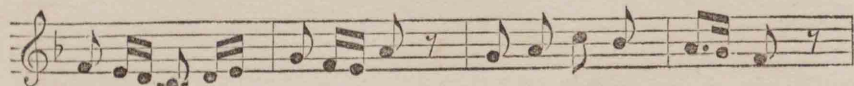
海水浴

岡野真一

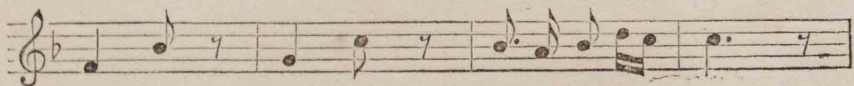
♩=120.



一、アミーテハーヤスム セイシヨウーノカク
 二、うきーてはーまねぐ かんおーのとも
 三、ヒルマハーアソープ サウーラウーノキ



アイテハーネムール ハクサノウーヘ
 しづみてーのぞーく ぎょーかのあーし
 グレテハーナガーム ロウトウノホシ



ミズ ミズ ゲントニューメ
 ああ ああ かいほのうーち
 ミハ ミハ バンリノカーク



サン シウーカン イヘラーラスル
 さん しーかん われをーわする
 サン シウーカン タピラーラスル

三三

海水浴

旗野十一郎

三二

一、あみては、やすむ、青松のかけ。
 あいては、ねむる、白砂のうへ。
 三、み ず、(みず) 塵都の夢。

二、浮きては、まねぐ、閑鷗の友。
 沈みて、のぞく、漁舸の脚。
 三、あ い、(あこ) 海波のうち。

三、ひるまは、遊ぶ、滄浪の岸。
 くれては、ながむ、樓頭の星。
 三、あ は、(あは) 吾を忘る。

三、あ は、(あは) 旅を忘る。

長良河の鶺鴒

Andante. ♩ = 56.

金須嘉之進



一、ミ ニヘ マツ ルート キ ミ ガ ヨ ノ ナ
二、あ ら う ま と リー の は た た き に か



ガ ラ ノ カ ハー ス ヲ ガ ヒ プ 子 サ バ ク タ
は せ の あ ゆー ご さ わ ぐ な り と る て ひ



ナ ハ ノ ア ヤー ド リ モ イ ク ト セ ガ ゲー ガ ミ
く て の あ つー か ひ は と し ふ る お ちー の に



ナー レ ザ ヲ サ ス ッ キ マ ダー キ ヲ ロ ヤ ミ
なー れ わ ざ ほ か げ も ゆー らー ぎ か は の も



ニ カ ガ リ ター ク サ ヘ ガ モー シ ロ ヤ
に ハ ガ リ うー つ ら ふ お もー し る や

三五

長良河の鶺鴒

旗野十一郎

三四

一、御贄奉ると、

君が代の。

ながらの川の、

うがひ舟。

さばく手繩の、

あやどりも。

幾年翁が、

みなれ棹。

さす月まだき、

宵闇に。

篝火たくさへ、

面白や。

二、新鶺鴒の、

羽鼓きに。

河瀬の鮎兒、

騒くなり。

とる手曳く手の、

あつかひは。

としふるおちの、

手煉業。

火影もゆらぎ、

川の面に。

篝火うつらふ、

面白や。

古 戦 場

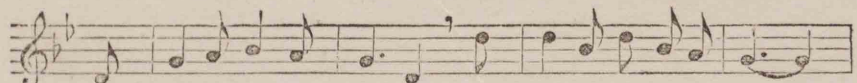
Andante. ♩=96.

天 谷 秀



ニ マ ッ ノ ア ラ シ ニ ハ タ ホ ル ガ ヘ シ ー

ニ お ち ば の つ か に た て る は た が ひ ー



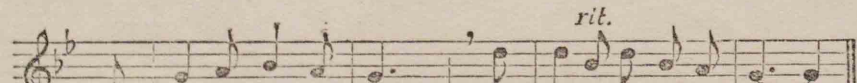
カ チ ド キ タ カ ク コ マ オ ロ イ レ シ ー

か ぜ に さ ら さ れ あ め に う た れ て ー



ノ ナ ト ヒ ク ー レ バ ヤ サ ケ ビ タ エ テ ー

こ け お ひ し ー げ り な こ そ よ め れ ど ー



ツ キ カ ゲ ス ゴ ク ナ ク ラ ッ ヲ ム シ ー

ち ら ー こ ん ぎ し の ほ ま れ は く ち じ ー

古 戦 場

一 松のあらしに、

軍旗ひるがへし。

勝哄高く、

駒追ひ入れし。

野を訪ひ来れば、

矢さけび絶えて。

月影すこく、

鳴く響むし。』

二 落葉の墳に、

建てるは誰が碑。

風に晒れ、

雨に打たれて。

苔生ひ茂り、

名こそ讀めねど。

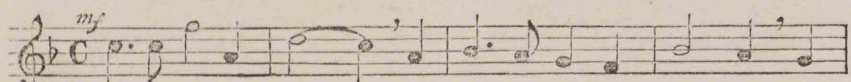
忠魂義士の、

榮譽は朽ちじ。』

芳野山

Moderato. ♩=108.

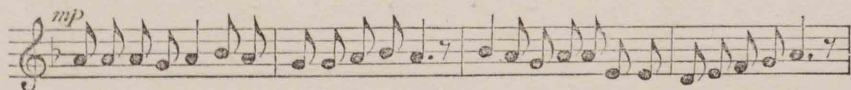
楠美思三郎



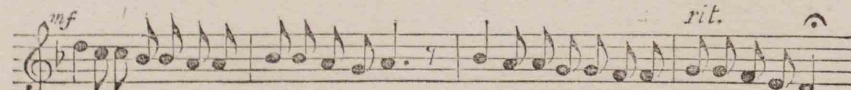
一、ヨキヒトノ一ヨシトホメタルヨ
二、よきひとのーよしとほめたるよ



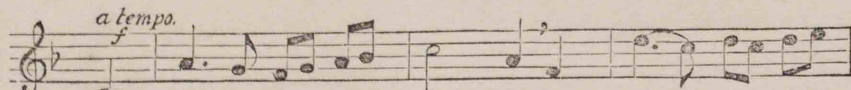
シーノヤマヨシーノヤマ
しーのやまよしーのやま



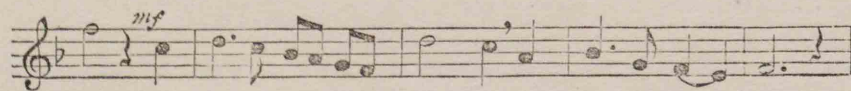
ヤヅリニノコスモノフノウタニムカシチシノバセテ
ふぶきになやむたわやめがゆきのすがたぞいさぎよき



ヤマトゴコロノアトトヘバタニノジタミツキギノトリ
みさなごころのあととへばたにのしたみづきぎのとり



アハレソーノーヨチカタールーナー
あはれそーのーよなかたーるーなー



リアハレソーノーヨチカタールーナーリ
りあはれそーのーよなかたーるーるーり

三九

芳野山

旗野十一郎

三八

一、淑人の、

鏃尻に遺す、

大和心の、

『あはれその世を、

二、淑人の、

吹雪になやむ、

貞操心の、

『あはれその世を、

善と賞たる、

ものゝふの。

あととへば。

かたるなり。』(復唱)

善と賞たる、

手弱女が。

あととへば。

かたるなり。』(復唱)

芳野山。

歌にむかしを、

谷のした水、

よしのやま、

雪のすがたぞ、

谷のした水、

よしのやま、

芳野山。

しのばせて。

樹々の鳥、

よしのやま。

いさぎよき。

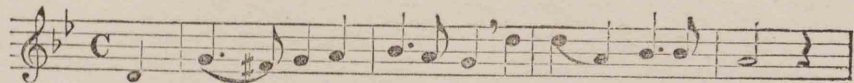
樹々の鳥。

いさぎよき。

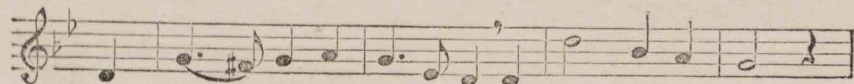
薩摩守忠度

Mesto. ♩ = 92.

天谷 秀



一、ジュ エーイノ アキノ ヲガ ーラシ ニ
 二、よ の ーくも ゆきも た だ ーなら す
 三、カ バ ー子ヲ ヤマニ サラ ースト モ
 四、こ た ーびの しふに いっし ーだ ーに
 五、サ グ ーリイ ダセル ヒト ーマ キ チ

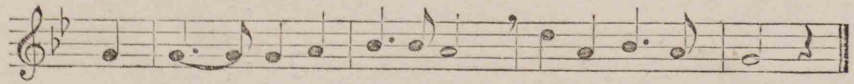


ム カ ーシノ エ イグ ヲ ヲ メ ト キ エ
 ま し ーてい ぶ せき よ は の そ ら
 ヲ キ ーナヲ ナ ミニ ナ ガ スト モ
 く ち ーぬか た みに え ら れ な ば
 ナ ミ ーダナ ガ ラニ ヲ タ シ オ キ



サ イ カ イト ホ ク マ ーヨ ーヒ ヲ ク
 こ で う さ ん み の も ーん ーぜ ん に
 サ ラ ニ イト ハ ヲ タ ーダ ーノ リ ガ
 く さ ば の か げ の よ ーる ーこ び に
 フ ケ ヲ ク ツ キ ノ カ ーダ ーサ シ テ

四一



へ イ ーケ ノ ス エ ツ ア ハ レ ナ ャ
 さ つ ーま の か み は ひ き か へ し
 コ レ ーヤ カ ギ リ ノ メ イ ホ ク ニ
 の ち ーの ま も リ と な リ な ャ と
 サ ギ ーリ ニ マ ギ レ オ チ テ ャ

薩摩守忠度

林

森太郎

四〇

一、壽永の秋の、
 西海遠く、
 木枯しに。
 昔の榮華、
 平家の末ぞ、
 夢と消え。
 あはれなる。」

二、世の雲行も、
 五條三位の、
 門前ならず。
 ましていふせき、
 薩摩守は、
 夜半の空。
 引きかへし。」

三、屍を山に、
 更に厭はぬ、
 さらすとも、
 忠度が。
 これや限りの、
 うき名を、
 波に流すとみ。
 面目に。」

四、こたびの集に、
 草葉のかげの、
 一首だに。
 よろこびに。
 朽ちぬ形見に、
 後の守りと、
 撰られなば。
 なりなむと。」

五、さぐり出せる、
 ふけ行く月の、
 影さして。
 涙ながらに、
 さ霧にまぎれ、
 わたし置き。
 落ちてゆく。」

神州男兒

加部 嚴 夫

一、荒磯浪は、よせ來とも。比呂羅那おろし、烈しくも。神州男兒の、たましひは。

いかで碎けん、くだけめや。虎が吼ゆとふ、あら野らも。鷺がとぶちふ、北海も。

ひとたび足を、あぐるとき。虎も尾をふせ、鷺もおつ。天涯萬里、うちなびけ。

世界くまなく、まつろへて。わが天皇に、さゝぐるは。神州男兒の、本分ぞ。

やよやますらを、健男兒、またき死は、何かせん。

くだけて玉と、なれよかし。また死は、何かせん。』

二、太平洋や、太西洋。洋々渺々、はてもなし。いたらん國に、いそしみて。

神州男兒の、名をあげよ。ありなれがはも、ふかゝらす。長白山も、たかゝらす。

吉林春賓、西北里亞も。今は皇國の、垣内なり。黒雲おこり、風すさび。

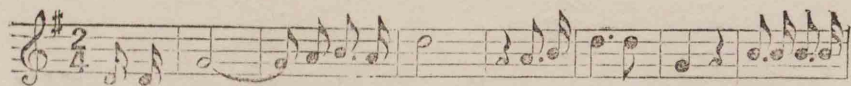
雷とろきて、くらけれど。神州男兒の、たましひは。やみをもてらす、光あり。

ゆけやすめや、健男兒。山はさけなば、さけぬべし。

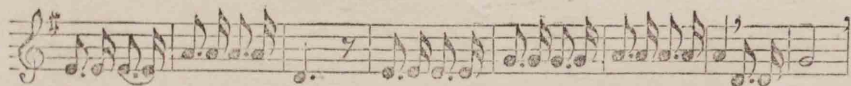
海はあせなば、あせぬべし。さけずあせぬは、たましひぞ。』

神州男兒

Allegretto Scherzando ♩ = 110

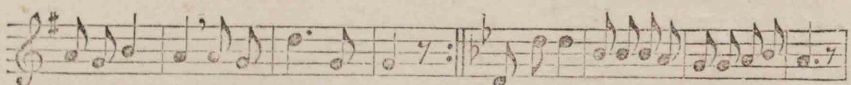


一、アライーソナミハヨセクトモヒマラヤ
トラガ—ホユトフアラノラモワシガー
テンガ—イパンリウチナビケセカイ—

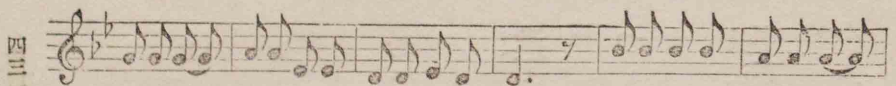


カロシーハゲシクモシンシウダンジノタマシヒハイカテ
トブチフホクカイモヒトタビアシチ—アグルトキトラモ
クマナクマツロヘテワガオホキミニ—ササグルハシンシウ

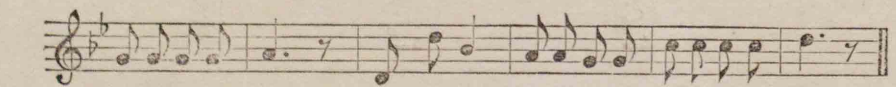
Moderato. ♩ = 100.



クダケンクダケメヤヤヨヤマスラチケンダンジ
チヲフセヲシモホツ
ダンジノホンブンゾ



マタキ—カハラハナニカセ—ンクダケテタマト—



ナレヨカシマタキカハラハナニカセ—ン

落機山吹雪

旗野十一郎

一、雪^{ゆき}の風^{かぜ}は、吹^ふきすさみ。

荒^あす野^の山^{やま}も、見^みえわかず。

世^よは白^{しろ}妙^{たへ}に、包^つまれし。

ロツキ一山^{ざん}の、おほふぶき。』

二、ただ往^ゆくものは、レンジール^(鹿馴)

人^{ひと}はひとあし、進^{すす}まれず。

白^{しろ}銀^{かね}の山^{やま}、前^{まへ}に置^おき。

吹^ふ雪^ぶに太^と息^{いき}、つくづくと。』

三、見^みわたす峰^{みね}も、

野^のも河^{かは}も、

雪^{ゆき}にしらけて、

物^{もの}凄^{せき}し。

ロツキ一山^{ざん}の、朝^あふぶき。

ロツキ一山^{ざん}の、

夕^{ゆふ}ふぶき。』

ロツキ一山吹雪

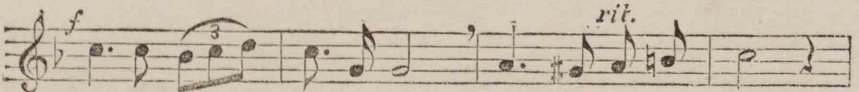
Andante. ♩ = 72. 天谷 秀



一、ニ キゲノ一カゼハ フキスサ ミ
二、た だ ゆ く ー も の は レ ン ジ ー ル
三、ミ ソ タ ス ー ミ ネ モ ノ モ カ ハ モ

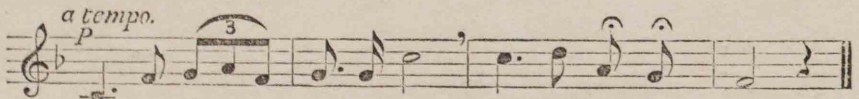


ア ラ ス ー ノ ヤ マ モ ミ エ ソ カ ズ
ひ と は ー ひ と あ し す す ま れ す
ユ キ ニ ー シ ラ ケ テ モ ノ ス ゴ シ



ヨ ハ シ ー ロ タ ヘ ニ ツ ツ マ レ シ
し る か れ の や ー ま ま へ に お き
ロ ッ キ ー ザ ン ノ ア サ フ ブ キ

四五



ロ ッ キ ー ザ ン ノ オ ホ フ ブ キ
ふ ぶ き ー に と い き つ く づ く と
ロ ッ キ ー ザ ン ノ ユ フ フ ブ キ

山家の初冬

Moderato. ♩=120

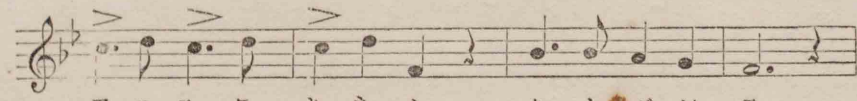
楠美恩三郎



一、ウ キ ヲ ノ ミチハオチバニ ヲロシ
二、しぐれに しばのさぼそは さしぬ



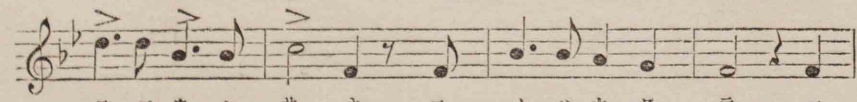
カゼノミ カヨフ アトコソミ ユレ
こからし たたく あとのみ こし



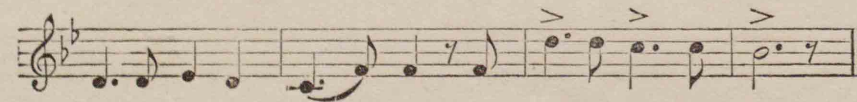
アハツク キネノ オトツレモ
のきばの たきぎ つみなくて



ユタハシ タニノ ミツマカセ ヨ
ぬるりの ほだの いぶせきも み



ニヒサル サキ ユ トハナク テ コ
にはげぶ たき あもひしらで こ



コロヤス キーハフ ユノヤマガ
こるやす きーはふ ゆのやまが

四七

山家の初冬

旗野十一郎

一、浮世の、道は落葉にうもれ。

風のみかよふ、跡こそ見ゆれ。

粟つく杵の、音信も。應は谷の、水まかせ。

世にも五月蠅、事は無くて。心安きは、冬の山家。』

二、時雨に、柴の扉はさしぬ。

用 鼓く、音のみ残し。

のきばの薪、つみなくて。圍爐裏の櫓の。いぶせきも。

身にはげぶたき、念知らで。心安きは、冬の山家。』

四六

恵の波

Moderato. ♩=96.

天谷 秀

テ キー ミ カ タ キズツクロートモヤムヒトモ

マモリタスクル ヒトノ テニ モーレヌメグミノ ナミキヨミ

オーホミヨーホ シナメクスリモ アリソウミ

♩=80.

ソコヒモシラヌ ナサケカナ ホリヌーノーチマ

クヤタマ テーニイ グーバグ ノヒ

四九

トノイノチーモツ ナギトムラン コレ

ヤノヒノカミノソサコレ ヤマコトノシクノミサ

恵の波 (看護婦)

下田 歌子

四八

敵味方、傷く人も、病む人も。
 看護り助くる、人の手に、洩れぬ恵の、
 大御代は、死なぬ薬も、ありそ海。
 底ひも知らぬ、情かな。
 細布を巻くや玉手に。幾ばくの。
 人の命も、繋ぎとむらん。
 これや救の、神のわざ。
 これや誠の、人の道。

樂 聖

Maestoso. ♩ = 60.

岡野貞一

一、ト キ ノ ミ カ ド ノ ミ コ ト ニー
ニ さ き の み か ど な き げ す みー

モ ユ キ テ カ ヘ ラ ヌ セ イ ー カ イ
て よ に は い だ き め シ ャ ー ホ ニ

ハ ア ア ー ガ ク モ セ イ ナ
ー あ あ ー が く も セ イ ナ

リ ア ア ー ヒ ト モ セ イ ナ リ
リ あ あ ー ひ と も セ イ ナ リ

樂

聖

一、時のみかど(白河天皇)の、

ゆきてかへらぬ、

ア、樂も聖也(樂人)

二、時のみかど(神)を、

世には出ださぬ、

ア、樂も聖也(聖)

勅にも。

青海波。

ア、人も聖也(樂人)

さげすみて。

シンホニー。

ア、人も聖也(聖)

旗野十一郎

黄 鳥

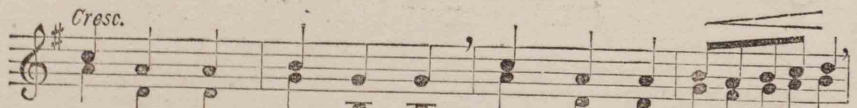
Moderato. ♩ = 116.



一、タ ニ ノ フ ル ス ハ プ キ イ --- デ
 二、か な る う め の な が き き --- て
 三、モ モ チ ド リ ノ ナ カ ヌ マ --- ニ



コ ノ メ ハ ル ニ ヲ ツ ロ ヒ
 は る な う た ふ こ の さ リ
 ヒ ト リ サ ケ プ サ キ ガ ケ



ホ ノ ガ エ タ ル タ カ ネ ア --- ゲ
 き よ き た け の さ え だ つ --- き
 ヒ ト ニ シ ラ レ ヨ ニ モ ナ --- リ



ミ ヨ チ イ ハ フ ヲ グ ヒ ス
 は る な を ど る こ の と リ
 ミ ヤ ビ ヲ ザ ニ ト モ ナ ヒ

黄 鳥

旗野 十一郎

一、谷の古巢、
 羽振き出で。

このめ春に、
 うつろひ。

自が得たる、

御代を祝ふ、
 うぐひす。』

二、薰る梅の、

小笠被て。

春を歌ふ。
 斯鳥

清き竹の、

小杖杖き。

春を躍る、
 斯鳥

三、百千鳥の、

啼かぬ間に。

獨叫ぶ、
 さきがけ。

人に知られ、

世にも鳴り。

風雅業に、
 ともなひ。』

春の歌

Gentle. ♩ = 96. Weber.

Musical staff with lyrics: 一、ハナニカスムハールーヤ、ニ、はれにけぶるはーるーのーのべ

Musical staff with lyrics: ヨ ヌ ノ ナ ガ メ ノ ド カ ニ、どこもあやにいろめき

Musical staff with lyrics: ミ タ リ ヨ タ リ ア ソ ー プ ー ロ ー ト、あとにさきになとめども

Musical staff with lyrics: コ ー シ ノ ヒ ー サ コ プ ラ プ ラ、なぐさつむとふらふら

春の歌

旗野十一郎

一、はなにかすむ、春の山、四方の眺望、長閑に。

「三人四人、遊ぶひと。」

腰の瓢、ぶら、ぶら。唱復

二、はれにけぶる、春の野邊、何處も綾に、色めき。

「後に先に、少女ども。」

小草摘むと、ふら、ふら。唱復

端艇競漕

Allegretto. ♩ = 126.

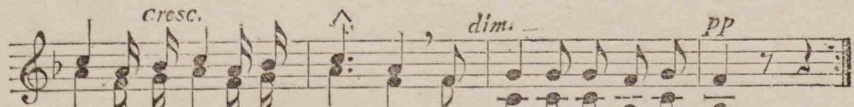
Weber.



一、ワカニハヒトナミツーチテ
ニ、いるどるはたかぜいさみ



ミツニハフチロワナーラベイデ
あひづのつつそれいさかいで



ヤイデヤケフコソハレナレイデヤ
やいでやかいさきそるへていでや

端艇競漕

旗野十一郎

一、陸には人、波うちて。

水には艇、櫓を並べ。

「イデヤ、イデヤ。今日こそ、はれなれ、イデヤ。」(復唱)

二、色彩はた、風いさみ。

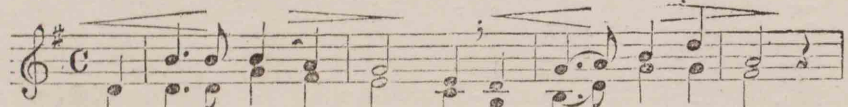
會圖の銃、それいまか。

「イデヤ、イデヤ。楫先、そるへて、イデヤ。」(復唱)

初 夏

Con grazia. ♩ = 96.

天谷 秀



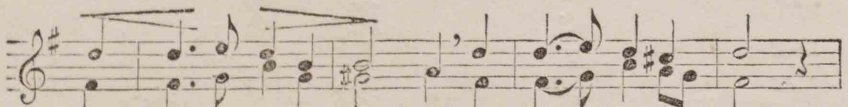
一、ア フ バ ニ イ サ ム ハ ッ カ ッ ラ

二、ま た め づ ら し き は つ ほ た る



ヒ ト コ エ タ カ キ ホ ト ト キ ス

ひ と も し ご る の ゆ ふ す す み



ナ ツ モ カ ク マ デ カ モ シ ロ キ

な つ も か く ま で た の し み の



ヨ ナ ヲ ハ ナ ハ タ ガ カ キ 子

あ る じ は と も な ま つ の か げ

初 夏

旗野 十一郎

一、青葉にいさむ、

はつ松魚

一、

聲たかき、

ほととぎす。

夏もかくまで、

おもしろき。

世をうの花は、

誰が垣根。

二、まためづらしき、

はつ

螢。

点

燈時の、

夕

夏もかくまで、

樂

あるじは朋友を、

まつの蔭。

涼

みの。

山居の美

Moderato, ♩ = 100.

Volksweise.



一、ミ ヤ マ ノ ナ カ ニ コ コ ロ コ キー

二、み や ま の な か に お と の よ キー

三、ミ ヤ マ ノ ナ カ ニ ナ ガ メ ヨ キー



ハ チーノヘノヒーカージェアー

は ま ー つ か ぜー きー よー く たー

ハ シーラクモローキーテムー

六一



チバニーサーシーテイホモニーホーフ

にみづーさーびーてやのとめーぐる

カツラーカースーメマドチヨギー

山居の美

旗野十一郎

一、深山の中に、愉快は。」

『尾上の日影、青葉にさして、庵も映ふ。』(復唱)

二、深山の中に、音の好きは。」

『松風清く、溪水寂て、家外めぐる。』(復唱)

三、深山の中に、眺望好きは。」

『白雲湧きて、向峰かすめ、窓を横過る。』(復唱)

姫百合

Cantabile. ♩=96. 天谷 秀

一、名もなき草に、かこまれて。
 二、白みし貌に、紅さして。

ナ モナキ—クサニ カ コマレ—テ—
 ニし ろみし—ほゝに べ にさし—て—

コ ノヨロ—ビシキソ デノツ—ユ—
 のぞくむ—ぐらのほかげご—し—

メ レ—カハソ レ—トシラユリ—ノ—
 さな—がらこれ—ぞみやひめ—の—

カ ヨロキサ マ—ヤヒメ—ゴ—コロ—
 をすにかくる—るひめ—こ—ゆり—

姫百合

旗野十一郎

一、名もなき草に、かこまれて。
 この世わびしき、袖の露。
 誰れかはそれと、しらゆりの。
 か弱きさまや。姫ごころ。』

二、白みし貌に、紅さして。
 視く葎の、葉蔭ごし。
 さながら是れぞ、宮姫の。
 小簾に隠るゝ、姫小百合。』

文部省檢定濟

明治四十二年三月五日

明治四十一年七月廿五日印
明治四十一年八月一日發
明治四十一年九月一日再發
明治四十二年二月十五日三版發
明治四十二年三月十五日訂正四版發行
大正二年三月二十五日發行

發行所

東京市京橋區銀座三丁目二番地

十字屋樂器店

電話京橋一二五九
振替口座東京七一五八



著者

天谷

東京市神田區今川小路二丁目十二番地

發行者

倉田繁太郎

東京市神田區雉子町三十四番地

印刷者

深山一郎

東京市神田區雉子町三十四番地

印刷所

成章堂

定價金五拾五錢



1900.0.17





広島大学図書

0130449454

